

普及だより

●編集発行

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

肝属地域農業改良普及事業協議会

ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/chiiki/osumi/index.html>

鹿屋市打馬2丁目16-6

TEL: 0994-52-2146

FAX: 0994-52-2147

<新年明けましておめでとうございます!!>

◎肝属地域農業改良普及事業協議会会長（鹿屋市長：中西 茂）

皆様方におかれましては、平成29年の新春を晴れ晴れしい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は年明け早々記録的な積雪に見舞われ、なんごう地区のバレイショや豆類、垂水地区の露地ピワ等に甚大な被害が発生し、また9月には台風16号が大隅半島に上陸、局地的な強風と大雨により播種したばかりの秋冬野菜が流亡、施設の倒壊など気象災害に振り回され、改めて農業の厳しさを思い知らされた一年となりました。また、アメリカ大統領選挙の結果によりTPP協定の発効が大変厳しくなることも予想されるなど、農業を取り巻く国内外の情勢は目まぐるしく変化しています。

このような情勢の中、ピーマンをはじめとした施設園芸への新規就農や子牛価格の安定、大隅加工技術研究センターの活用など、関係機関の皆様のご尽力により取組の成果が見え始めています。当協議会では、本年度も引き続き、関係機関・団体と緊密な連携を図りながら、災害からの早期復旧、地域農業・農村の発展に尽力してまいります。

最後に、皆様のご多幸と本年が肝属地域農業・農村の更なる飛躍の一年となりますよう心から祈念申し上げます。



◎大隅地域振興局 農林水産部 農政普及課長（永吉 治）

皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、肝属地域において「県青年農業者会議」や「地域農業を語る会」が盛大に開催されるとともに、肝属中部地区畑かんの平成29年度末の本格通水に向けての着実な工事の推進や、TPP関連対策の各種事業の積極的な推進などに努めて参りました。

農業・農村を取り巻く環境は、農業後継者の減少・高齢化やTPP協定に象徴されるグローバル化の進展など、大きく変化していますが、肝属地域では、今後とも、新食料供給基地大隅の形成に向けて、農業経営の安定や生産性向上、次世代を担う若手農業者の育成、安心・安全な農産物づくり、持続的発展のための営農システムづくりなどに取り組んでいきます。

本年は、県茶業振興大会肝属大会が開催されることとなっており、着々と準備を進めているところで、農政普及課は、皆様方と一体となって、様々な課題を解決するために、精一杯取り組んで参ります。肝属地域の農業・農村の明るい未来を一緒に築いていきましょう。

最後に、皆様方のご健康とご多幸を祈念し、本年が、肝属地域の農業にとりまして、素晴らしい一年になりますよう心からお祈りいたします。



<地域農業を語る会>

～元気だよ大隅！人も地域も！～

1 はじめに

県農業経営者クラブ肝属支部は現在25名のクラブ員で活動しています。

今年のメインイベントである「地域農業を語る会」が7月25日にクラブ員、青年農業者、関係機関等68名で盛大に開催されました。

鹿屋市から垂水市にかけて現地検討会～室内検討会（事例発表・意見交換・農政部長講評）～情報交換会（大野原のおもてなし料理）の日程で行いました。

2 現地検討会

(1) 清水 太志氏（鹿屋市，茶）

清水氏は茶12haを経営し、経営当時から茶園の集団化を図るに至った苦勞話を紹介してくれました。K-GAP認証により、安心安全な茶づくりに努める等、消費者に美味しいお茶を届けることをモットーに茶業経営に励んでいます。



(2) 前田 清輝氏（垂水市，村づくり）

前田氏は垂水市大野原地区の公民館長であり、大野地区の村づくりへの取り組みを紹介しました。大野づくり計画に基づいて住民同士の強い団結のもと、地区外から若い力を活用しながら、伝統芸能の継承や地域資源を活用した活動に取り組み、「共生・協働」のモデルとなっています。



3 室内検討会

室内検討会は、青年農業者2名とクラブ員1名の事例発表、意見交換、農政部長講評を行いました。



宮下 祐一氏（鹿屋市）
「宮下製茶の経営戦略
（茶工場環境改善）」



今隈 幸洋氏（錦江町）
「就農してから今までと
これからの展望」



田中 武雄氏（鹿屋市）
「JAS オーガニック黒豚に
認証された薩摩黒豚」

4 情報交換会

平成19年に結成された加工グループ「高味わかば」に交流会の料理を依頼しました。

「がね、煮そめ、季節野菜サラダ、ニジマスの塩焼き、猪汁等」地元のこだわり品がテーブルいっぱいになり並び大好評でした。



< 県茶品評会深蒸し煎茶の部で上位独占!! >
 ~ 肝属地区から農林水産大臣賞と産地賞 ~

平成28年11月13日、日置市伊集院町の小鶴ドームにおいて、「かごしまお茶まつり2016日置大会（県茶業振興大会）」が開催されました。大会式典や百円茶屋などの消費拡大イベント、茶機械展示や産地視察などが行われ、県内の茶業関係者や消費者など多くの人で賑わいました。

式典では、県茶品評会の表彰式が行われ、**深蒸し煎茶の部において、鹿屋市の岩元園（岩元優子さん）が農林水産大臣賞、錦江町が産地賞（団体1位）を受賞**されました。これまで現地検討会や研修会などを重ねて技術力向上に努めてきた成果が出て、生産者や関係機関一同、歓喜に包まれました。



< 農林水産大臣賞の岩元園（鹿屋市） >



< 産地賞の錦江町 >

また、**次年度開催地あいさつ**では、**鹿屋市の原口副市長が、肝属地区の魅力と茶業振興の取組を紹介**するとともに、これまでの単独市町村の開催ではなく、初めてとなる「**地区での開催**」をアピールされ、肝属大会への多くのご来場を呼びかけました。ステージには、おそろいの赤いポロシャツを着た茶生産者や関係者約20名も一緒に登壇し、舞台に華を添えました。

肝属地区では、次年度の県茶業振興大会に向けて準備委員会を立ち上げ、着々と準備を進めるとともに、県茶品評会での農林水産大臣賞及び産地賞の受賞を目指して、現地検討会や研修会を重ねています。

来年度、生産者が地元開催の県茶業振興大会で表彰を受け、多くの人で賑わう素晴らしい大会になるよう、生産者と関係機関が一体となって、さらに活動を強化していきます。



< 赤シャツが映えた次年度開催地あいさつ >



< 茶園の更新についての現地検討会 >

知って**得**する! 技術情報!! ～経営編～

< 「消費税」の仕組みを知ろう! >

平成26年4月から消費税が8%に引き上げられ、消費税の負担が重くなったと感じる方も多いのではないのでしょうか。消費税の仕組みを理解し、経営状況に合わせた制度を選択するようにしましょう。

1 消費税のあらまし

(1) 課税対象

消費税は、国内で行われる取引（国内取引）と外国貨物（輸入取引）に対して課税されます。国内取引は、国内において事業としての対価を得て行われる資産の譲渡、資産の貸付け、役務の提供が課税対象です。事業用の建物や機械等の売却や購入なども課税取引となります。

(2) 税率 8%（消費税率 6.3%＋地方消費税率 1.7%）

2 事業者免税点制度

課税期間に対する「基準期間（個人の農家の場合は、課税期間の前々年。課税期間が平成28年分の基準期間は平成26年分）」における課税売上高が1,000万円以下である事業者については、その課税期間の納税義務が免除されます。

ただし、基準期間の課税売上高が1,000万円以下であっても、課税期間の前年（平成28年が課税期間の場合は、平成27年）の1月1日から6月30日までの課税売上高が1,000万円を超える場合には、課税事業者となります。

この、課税期間の前年の6ヵ月間の判定機関を「特定期間」といいます。

3 納付税額の計算方法

納付税額の計算方法には、一般的な計算方法である「一般課税」によるものと、中小企業者（基準期間の課税売上高が5,000万円以下の事業者）が選択できる簡易な計算方法の「簡易課税」によるものがあります。

(1) 一般課税

$$\boxed{\text{課税売上高} \times \text{消費税率}} - \boxed{\text{課税仕入高} \times \text{消費税率}} = \boxed{\text{納付税額}}$$

(2) 簡易課税

$$\boxed{\text{課税売上高} \times \text{消費税率}} - \boxed{\text{課税売上高} \times \text{みなし仕入率} \times \text{消費税}} = \boxed{\text{納付税額}}$$

「みなし仕入率」は業種によって決められており、農業の場合は70%です。簡易課税は、課税売上高を計算すれば納付税額の計算ができるので、納税に係る事務の負担が軽減されます。

一方で、一般課税では課税売上高に対して課税仕入高の割合が高くなった場合に、税額がその分だけ軽減される場合があるのに対し、簡易課税では課税仕入高に関係なく一定の割合で納付税額が計算されることとなります。

4 税に関する問い合わせについて

税に関する個別の問い合わせは、最寄りの税務署か税理士に行うようにお願いします。なお、県担い手育成支援協議会のスペシャリスト派遣事業で税理士の派遣ができる場合がありますので、市町農政担当課や地域振興局農政普及課にご連絡くださるようお願いいたします。

知って**得**する!技術情報!!～野菜編～

<ばれいしょ 疫病対策について >

肝属地域（主になんごう）で早掘りや春作型のばれいしょが栽培されています。その中で2月から3月にかけて疫病が発生し、減収要因の1つとなっています。今回はその疫病的対策について紹介します。

○疫病的症状

主に下葉の葉先や葉縁部に**褐色の水浸状の病斑**をつくり、多湿条件で進行するとは拡大して暗褐色になります。また、葉裏の健全部と病斑部境に**白色粉状のかび**を生じます。多湿条件では急激に下葉から上葉に蔓延することもあり、短期間のうちに葉が熱湯を浴びたようになり、株全体が腐敗し、ほ場全体から**悪臭**を放つこともあります。茎では、主に幼茎や葉柄に暗紫褐色の病斑となり、多発生して病斑が茎の周囲を囲むとその部分から容易に折れます。



<葉縁部病斑>

○発生しやすい条件

最低気温 10℃以上、平均気温 15℃以上になり、降雨が2～3日続くと発生しやすくなり、平均気温 18～20℃前後で曇雨天で経過すると蔓延が速くなります。

また、**窒素の多施用で茎葉が過繁茂になったところや風通しの悪いところなどで発病が多**くなります。



<葉裏病斑>

○防除

効果が十分でない場合があるので、**予防散布に努めることが重要**。

「写真提供：HP 埼玉の農作物病害虫写真集」

～ 薬剤散布（例）12月上旬植付の場合 ～

1回目 生育初期（1月中旬頃）

フォリオゴールド 500～1,000 倍（収穫7日前まで、3回以内）

茎葉伸長期に散布後、伸長した薬剤未付着部分へ成分が浸透移行する薬剤

2回目 生育中期（2月中旬頃）

プロポーズ顆粒水和剤 750～1,000 倍（収穫7日前まで、3回以内）

疫病発生時に対応可能で2週間程度の長期残効が期待できる治療効果と耐雨性が高い薬剤

3回目 生育中～後期（3月上～中旬）

ランマンフロアブル 1,000～2,000 倍（収穫7日前まで、4回以内）

茎葉伸長がほぼ停止する時期に仕上げ剤として長期残効が期待できる耐雨性が高い薬剤

※フォリオゴールド、プロポーズ顆粒水和剤、ダコニール 1000 は同じ成分(TPN)を含むため
3剤合わせた使用回数は3回までです。

1回目の薬剤散布は発病前に必ず散布し、初発を遅らせることが重要です。疫病的発生に限らず病害は連続した降雨条件で発生しやすく、なおかつ降雨により薬剤散布ができないことから、甚大な被害を引き起こす場合があります。連日の長雨が続くときは3～4時間の雨が止んだ間でも散布することが必要となります。

知って**得**する!技術情報!!～果樹編～

<大隅地域にはこのような果樹があります>

1 辺塚だいたい

辺塚だいたいは、肝付町辺塚地区や南大隅町辺塚地区に古くから自生している香酸カンキツです(図1)。現在約3.5ヘクタールの面積があり、肝付町や南大隅町を中心に栽培されています。

収穫時期は9月～10月で、搾った果汁を料理や飲み物に入れて使われます。

JA鹿児島きもつきでは、辺塚だいたいジュースを製造、販売しています。昨年新商品として販売開始された辺塚だいたいソーダ(図2)は、女性や子供のみならず、生産者の方からも大変好評です。

地域では、様々な企業、団体等で辺塚だいたいの加工品が開発、販売されています。肝付町岸良地区では、NPO法人陸の宝島・岸良が設立され、辺塚だいたい果汁の商品化等により過疎化が進む地域の活性化に取り組んでいます。



図1 辺塚だいたい果実



図2 辺塚だいたいジュース・ソーダ

2 ハウスキンカン(無加温、加温栽培)

ハウスキンカンは、肝付町で1.2ヘクタール栽培されており、12月～3月に収穫されます(図3)。

大隅地域に多い黒ボク土壌では潤沢に水を吸えるため、丸かじりの青果用としてジューシーな果実生産が可能です。また、開花が複数回あるため着果の機会が多く、栽培しやすい品目です。

畑かんが整備されている地域、あるいは今後整備される地域において、水利用により高収益が期待される有望な品目です。



図3 ハウスキンカン栽培状況

3 パッションフルーツ

パッションフルーツは、5～8月に収穫される亜熱帯果樹です(図4)。

温暖な気候を活かして、肝付町や南大隅町等の施設で栽培されています。

果樹では珍しく定植した翌年には着果し、1～2年で改植することが多いです。都市部では需要が高まっており、販売単価が安定していることから、近年注目されている品目です。



図4 パッションフルーツの花と果実

知って得する! 技術情報!! ~畜産編~

<セリ成績への尾枕の影響について>

1 調査を実施した背景

最近の子牛価格は高価格で推移していますが、最近「**過肥の子牛が増えてきていないか?**」という声が一部の購買者等から聞かれます。そこで、肝属市場上場子牛全頭の尾枕の付き具合の実態及びセリ価格への影響について調査しましたので、その結果を紹介します。

2 尾枕の付き具合

調査したのは平成28年6月セリ上場の去勢子牛582頭と雌子牛437頭の合計1,019頭の子牛の尾枕の付き具合を3~4人で「少ない」「普通」「多い」「多すぎる」の4段階に判定しました(図1)。

頭数比は、**去勢**、**めす**共に尾枕が「多い」、または「多すぎる」と判定した子牛の割合が共に4分の1を占める結果となりました(図2)。

3 尾枕の付き具合と価格の関係

尾枕の判定区分毎の子牛セリ価格結果については、**めすは尾枕が多いほど価格が下がる結果となり、尾枕を付けすぎない無駄のない給与を行うことで収益性が向上できるのではないかと考えられました。**

一方、**去勢に関しては多少の尾枕があっても価格への影響は少なく、むしろ体高などの発育の善し悪しが価格への影響を多く与えている結果となりました。**

ただし、尾枕多すぎの区は普通の区よりも価格は劣る結果となりました(図3)。

また、尾枕が少ない牛の中にはやせていて毛づや等が悪く、明らかに体調不良牛と思われる子牛も散見されました。

4 無駄のない飼養管理とは

出荷日齢を伸ばし、出荷直前まで濃厚飼料多給を行うことは飼料コストの増加を招き、子牛の体高向上にも繋がりません。

体高がよく伸びる生後から6ヶ月齢までの時期には濃厚飼料をなるべく多く給与し、逆に6ヶ月令以降は徐々に良質な粗飼料の割合をふやすような飼料給与(図4)に努め、収益性の高い管理を心がけましょう。



図1 尾枕の写真(6月セリ)

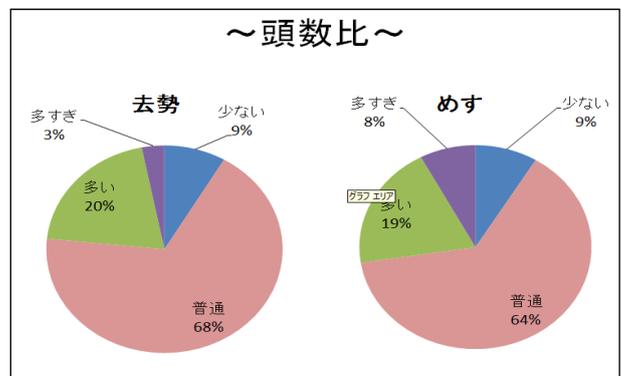
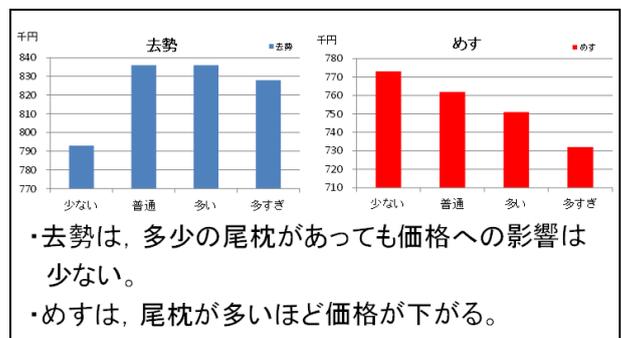


図2 尾枕調査の結果(頭数比)



・去勢は、多少の尾枕があっても価格への影響は少ない。
 ・めすは、尾枕が多いほど価格が下がる。

図3 尾枕調査の結果(セリ価格)

生後1週間からえづけ飼料に慣れさせる
 5ヵ月までは濃厚飼料を多給
 6ヵ月以降は徐々に良質な粗飼料を増やす

飼料給与のポイント

離乳の目安は、えづけ1kg以上摂取!

えづけから育成飼料への切替は、10日以上かけてゆっくり!

粗飼料多給(濃厚飼料制限)で、胃袋作り!

3ヶ月齢まで

えづけ飼料: 乾草 = 9 : 1

えづけ飼料重視

※えづけ飼料で子牛の体の発育と第1胃の絨毛の発達

4~5ヶ月齢まで

育成飼料: 乾草 = 7 : 3

5ヶ月齢は育成飼料最大給与

※5ヶ月齢は骨格が最も発達する時期

6ヶ月齢以降

育成飼料: 乾草 = 4 : 6

粗飼料を多給濃厚飼料を制限

※骨格づくりの後は、粗飼料で胃袋づくり

図4 体高を伸ばす飼料給与を!

<平成28年度 肝属地区青年農業者会議を開催！>

～意見発表・プロジェクト活動発表～

肝属地区農業青年クラブ連絡協議会では、平成28年11月22日に地区年青年農業者会議を開催し、青年農業者をはじめ指導農業士など59人の出席のもと、**プロジェクト発表の部2課題**、**意見発表の部4課題の発表**があり、素晴らしい発表の連続でした。

【プロジェクト発表の部】

発表者氏名	所属クラブ名	発表課題
中村 悠喜	肝付町ほよし耕心会	普通期水稲と早期水稲との作業の両立にむけて（水稲）
溝田 直志	翔南倶楽部	土着天敵を活用したピーマン総合的害虫防除技術の確立（施設野菜）



プロジェクト発表の部では、2人が日頃実践している技術や経営の課題解決活動、その成果について発表を行いました。
最優秀賞の翔南倶楽部・溝田直志さんは、ピーマン栽培における土着天敵を活用した総合的害虫防除技術の確立するため、土着天敵の情報の取得や天敵を増殖・温存するための**インセクタリアープランツの栽培実証**に取り組み、地域特産野菜への影響も調査することで、防除効果が確認でき、労働時間が減少し、経費も削減できた等の成果を報告しました。

【意見発表の部】

発表者氏名	所属クラブ名	発表課題
川路 博人	東串良町4Hクラブ	私の目標
尾脇 拓真	輝北町農業青年クラブ	就農4年、ゆとりある経営を目指して
武田 裕史	肝付町ほよし耕心会	ほよし耕心会の交流を通じて
野田 健太郎	鹿屋農業青年クラブ	私の目指す目標

意見発表の部では、4人が、就農のきっかけや農業経営への考え方、将来の目標や夢、農業に対する思いについて発表を行いました。

最優秀賞の肝付町ほよし耕心会の・武田裕史さんは、鹿児島県での施設園芸を希望して肝付町へ1ターン、**人とのつながり**を持つことの必要性を感じ、ほよし耕心会に加入。メンバーとの交流は良い刺激になり、つながりは心強く、そこから得たものをこれから新しく入る人に与えていきたいと熱く語りかけました。



今年度は、**県青年農業者会議**が指宿市で2月に開催されます。そこで、本年度は地区代表として、プロジェクト発表の部に最優秀賞の**溝田直志さん**、意見発表の部に最優秀賞の**武田裕史さん**が選出され、**県大会**で発表します。

めざせ！九州大会&全国大会！



発表した青年たち6人です！

(左から 尾脇氏、川路氏、野田氏、武田氏、溝田氏、中村氏)